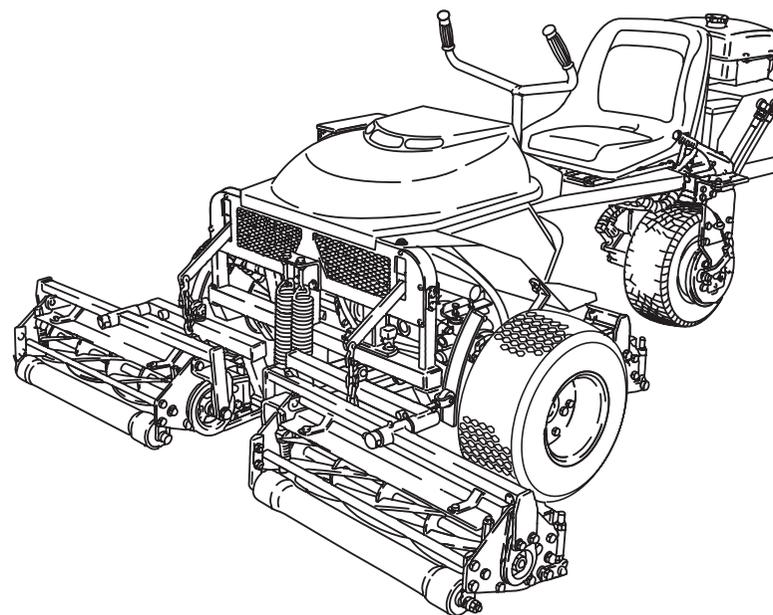


# LM185B・LM185BW

## 取扱説明書

乗用3連アプローチモア



“必読” 機械の使用前には必ず本書およびエンジンの取扱説明書をお読みください。

**BARONESS**  
Quality on Demand

Serial No. LM185B : 30158- • LM185BW : 30499-

Ver. 2.1

## 目次

ごあいさつ	2	8-1 締め付けトルク	13
はじめに	2	8-2 機種別締め付けトルク	14
危険警告記号の説明	2	9. 使用前の調整	15
使用上の注意 <b>▲注意</b>	3	9-1 モアの調整	15
使用目的	3	刈高調整	15
トレーニング	3	刃合わせ調整	15
運転の前に <b>▲警告</b>	3	9-2 シートの調整	15
運転操作	4	9-3 リールカバーの調整	15
保守と保管	5	10. 作業時の操作方法 <b>▲注意</b>	16
リサイクルおよび廃棄処分	5	11. 各部の操作方法 <b>▲注意</b>	16
1. 使用上の注意事項	6	11-1 エンジン始動・停止 <b>▲危険 ▲警告 重要</b>	16
1-1 <b>▲注意</b> 高温部の注意	6	11-2 モア昇降用スイッチ	17
1-2 <b>▲警告</b> 回転部について	6	11-3 リールクラッチレバー	17
2. <b>▲警告</b> 傾斜地作業について	6	11-4 サイドブレーキ	17
3. 安全作業について	6	11-5 3 輪駆動の切り替え (LM185BW のみ) <b>▲注意</b>	17
3-1 <b>▲警告</b> 安全のための衣服について	6	11-6 油圧ポンプ・アンロードバルブの操作方法	17
3-2 <b>▲警告</b> こんなときは運転しない	6	12. メンテナンス	18
3-3 <b>▲注意</b> この機械を他人に貸すとき	6	12-1 メンテナンス上の注意 <b>▲警告 ▲注意</b>	18
3-4 <b>▲注意</b> この機械の改造禁止	6	12-2 メンテナンススケジュール	18
3-5 <b>▲注意</b> マフラー・エンジン回りのごみは取り除く	6	13. ジャッキアップ	19
3-6 <b>▲警告</b> 夜間走行・作業の禁止	6	13-1 ジャッキアップについて <b>▲警告</b>	19
3-7 <b>▲注意</b> 一般道走行の禁止	6	13-2 ジャッキアップポイント	19
4. 特長	7	14. グリースアップ	20
5. 仕様	7	14-1 グリースアップについて	20
6. 各部のラベル <b>重要</b>	8	14-2 グリースアップ位置	20
7. 使用前の点検	10	15. バックラッピングの方法 <b>▲警告 ▲注意</b>	25
7-1 ベルトの張り具合の点検 <b>▲警告 重要</b>	10	16. 「10 カラー 2216」の組み付け位置について	26
7-2 サイドブレーキの点検	11	17. 長期保管について	26
7-3 ハンドルワイヤーの点検	11	18. 配線図	27
7-4 タイヤ空気圧の点検	11	19. 油圧回路図 (LM185BW)	27
7-5 刃の切味の点検	11		
7-6 エンジンオイル量と汚れの点検 <b>▲注意</b>	11		
7-7 バッテリーの点検 <b>▲危険</b>	11		
7-8 油圧作動油の点検	12		
7-9 各部油漏れの点検	12		
8. 各部の締め付け <b>重要</b>	13		

## ごあいさつ

このたびは、パロネス製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本書は、この製品の正しい取り扱い方法と調整方法、また点検方法について説明しています。

いつまでも優れた性能を発揮させ、安全な作業をしていただきますようお願いいたします。

## はじめに

本書を読んで製品の使用方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑のかからない、適切な方法でご使用ください。

この製品を適切かつ安全に使用するのをお客様の責任です。

整備を行う場合は専門知識のある要員によって作業を行ってください。

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店、販売店または、弊社にお問い合わせください。

お問い合わせの際には、必ずこの製品の型式と製造番号をお知らせください。

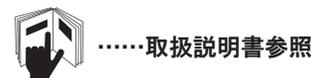
この製品を貸与または、譲渡する場合はこの製品と一緒に本書をお渡しく下さい。

株式会社 共栄社

## 危険警告記号の説明

本書では安全に関する重要な取り扱い上の注意事項について、危険警告記号を使用し、次のように表示しています。

	危険警告記号
	この記号は「危険」「警告」「注意」に関する項目を意味します。いずれも安全確保のための重要事項が記載してありますので、注意してお読みいただき、十分理解してから作業を行ってください。これらを遵守されない場合、事故につながるおそれがあります。
	<b>危険</b> その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しています。
	<b>警告</b> その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うおそれがあるものを示しています。
	<b>注意</b> その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのある、または物的損傷の発生が予測されるものを示しています。
	<b>重要</b> 製品の構造などの注意点を示しています。



……取扱説明書参照



……危険マーク  
(手足の巻き込み)



……危険マーク  
(飛散物)



……注意マーク  
(はさまれ注意)



……危険マーク  
(火気厳禁)



……警告マーク  
(安全のための衣服)



……警告マーク  
(高圧オイル)



……危険マーク  
(ベルトなど回転部)



……危険マーク  
(指の切断)



……注意マーク  
(高温部)



……警告マーク  
(排気ガスに注意)



……燃料マーク  
ガソリン



……グリース

## 使用上の注意



**注意**

本書記載事項は、改良のため予告なしに変更する場合があります。  
部品交換を行う場合は、必ず「BARONESS 純正部品」または「弊社指定部品」を使用してください。  
純正部品以外の部品を使用して生じた不具合については責任を負いかねます。

この製品を使用する前に下記の取扱説明書を必ずお読みいただき、内容を十分にご理解ください。

- ・ バロネス製品の取扱説明書
- ・ エンジンの取扱説明書
- ・ バッテリーの取扱説明書

## 使用目的

この製品は、ゴルフ場の芝草刈り作業を目的とした機械です。  
この目的以外で使用したり、機械の改造をしないでください。  
この製品をその他の目的で使用したり、改造すると大変危険であり、機械を損傷する原因にもなります。  
また、この製品は特殊自動車の型式認定を取得していませんので、一般道路は走行できません。

## トレーニング

1. 本本書や関連する機器の説明書をよくお読みください。  
各部の操作方法や警告ラベル、本機の正しい使用方法に十分慣れておきましょう。
2. オペレーター、整備士が日本語を読めない場合には、オーナーの責任において、本書の内容を十分に説明してください。
3. すべてのオペレーター、整備士に適切なトレーニングを行ってください。  
トレーニングはオーナーの責任です。  
特に以下の点についての十分な指導が必要です。
  - [1] 乗用機械を取り扱うときは注意と集中が必要である。
  - [2] 斜面で機体が滑り始めるとブレーキで制御することは非常に難しくなる。  
斜面で制御不能となる主な原因：
    - タイヤのグリップ不足
    - 速度の出しすぎ
    - 不適切なブレーキ操作
    - 不適当な機種選定

- 地表条件（凸凹、凍結、ぬかるみ）特に傾斜角度を正しく把握していない場合
  - 不適切な連結と重量分配
4. 子供（18才未満）や正しい運転知識の無い方には機械を操作させないでください。  
地域によっては機械のオペレーターに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。
  5. オーナーやオペレーターは自分自身や他の安全に責任があり、オーナーやオペレーターの注意によって事故を防止することができます。
  6. 人身事故や器物損壊などについてはオーナー、オペレーター、整備士が責任を負うものであることを忘れないでください。
  7. 本書には、必要に応じて追加の安全情報が記載されています。
  8. 通常の操作位置から機械の左右を決めています。

## 運転の前に

1. 作業場所を良く観察し、安全かつ適切に作業するには、どのようなアクセサリやアタッチメントが必要かを判断してください。メーカーが認めた以外のアクセサリやアタッチメントを使用しないでください。
2. 作業には安全靴と長ズボン、ヘルメット、保護メガネ、および聴覚保護具（イヤーマフ）を着用してください。  
長い髪、だぶついた衣服、装飾品などは可動部に巻き込まれる危険があります。また、裸足やサンダルで機械を運転しないでください。
3. 機械が使われる区域を点検し、小石、玩具、および針金のような、機械がはね飛ばす可能性のあるすべての物体を取り除いてください。
4. 子供を作業区域に入れないでください。オペレーター以外の大人の監視下に置いてください
5. 燃料の取り扱いには十分注意してください。



**警告**

燃料は引火性が高いので、以下の注意を必ず守ってください。

- [1] 燃料は専用の容器に保管する。
- [2] 給油はエンジンを始動する前に行う。エンジンの運転中やエンジンが熱いときに燃料タンクのフタを開けたり給油をしない。
- [3] 給油は必ず屋外で行い、給油中は火気厳禁とする。喫煙しない。
- [4] 燃料がこぼれたらエンジンを始動せずに、機械を別の場所に動かし、気化した燃料ガスが十分に拡散するまで引火の原因となるものを近づけない。
- [5] 燃料タンクや燃料容器のフタは確実に閉める。
6. 運転操作装置（ハンドル、ペダル、レバーなど）、安全装置、防護カバーが正しく取り付けられ、正しく機能しているか点検してください。これらが正しく機能しないときには作業を行わないでください。

7. ブレーキの効きが悪かったり、ハンドルに著しいガタがある場合は、必ず調整、修理してから使用してください。
8. マフラーが破損したら必ず交換してください。
9. 複数のリールカッターを持つ機械では、1つのリールカッターを回転させると他も回転する場合がありますので注意してください。

## 運転操作

1. 有毒な一酸化炭素ガスがたまる可能性のある閉め切った場所では、エンジンを作動しないでください。
2. 十分に明るい場所でのみ運転し、穴や、隠れた危険を避けるようにしてください。
3. エンジンを始動する前に作業部への駆動をすべて遮断し、走行シフトをニュートラルにして、駐車ブレーキをかけてください。  
運転席に着座してエンジンを始動してください。  
シートベルトがある場合は着用してください。
4. 「安全な斜面」はありません。  
芝生の斜面での作業には特に注意が必要です。  
転倒を防ぐために
  - [1] 斜面では急停止、急発進しない。
  - [2] 走行クラッチがある機械はクラッチをゆっくりつなぐ。  
また坂を下る場合は、走行ギヤを入れた状態にする。
  - [3] 斜面の走行や旋回は低速で行う。
  - [4] 凸凹や穴、隠れた障害物がないか常に注意する。
  - [5] 斜面を横切りながらの作業は、そのような作業のために設計された機械以外では絶対に行わない。
  - [6] 決められた角度以上の傾斜地または転倒やスリップの危険がある場所では、絶対に作業を行わない。
5. グラスキャッチャーや他の作業機を使用して機械を操作しているときは、特別な注意を払ってください。それらは機械の安定性に影響することがあります。
6. ガードが破損したり、正しく取り付けられていない状態のまま運転しないでください。  
インターロック装置は絶対に取り外さないでください。  
正しく調整した状態で使用してください。
7. エンジンのガバナーの設定を変えたり、エンジンの回転速度を上げすぎたりしないでください。  
エンジンを規定以上の速度で運転すると、人身事故を起こす危険が増大します。
8. 運転位置を離れる場合は次を厳守してください。
  - [1] 平らな場所に停止する。
  - [2] 作業部の動力を遮断し、作業部を下げる。

- [3] 走行シフトをニュートラルにして、駐車ブレーキをかける。
- [4] エンジンを止め、キーを抜き取る。
9. 以下のような状況になった場合には、アタッチメントの駆動を停止し、エンジンを止め、キーを抜き取ってください。
  - [1] 燃料を給油するとき。
  - [2] グラスキャッチャーを取り外すとき。
  - [3] 刈高を調整するとき。  
ただし運転位置から遠隔操作で行える場合は除きます。
  - [4] 詰まりを取り除くとき。
  - [5] 機械の点検、清掃、整備作業などをするとき。
  - [6] 機械に異物がぶつかったり、異常な振動を感じたとき。  
械を再始動する前に機械の損傷を点検・修理してください。
10. 作業部や回転部に手足を近づけないでください。
11. 後進するときは、下方と後方の安全に十分注意してください。
12. オペレーター以外の人を乗せないでください。
13. 周囲に人がいるとき、特に子供やペットがいるときは、絶対に作業を行わないでください。
14. 旋回するとき、管理道路やカート道、歩道を横断するときは減速し、周囲に十分注意してください。
15. 草地以外の場所では、刃の回転を停止してください。
16. 移動走行中や作業を休んでいるときは、作業部への駆動を止めてください。
17. 作業機を使用する場合、排出方向などに気をつけ、人に向けないようにしてください。  
また作業中は機械に人を近づけないでください。
18. アルコールや薬物を摂取した状態で運転をしないでください。
19. 本機をトラックやトレーラーに積載する場合は、十分注意してください。  
積み降ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラーの駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、輪止めをして行ってください。  
トラックやトレーラーに積載して移動するときは、本機の駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、強度が十分あるロープなどで機械を固定してください。  
あゆみ板を使用する場合は、幅、長さ、強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。
20. 本機を輸送する場合は、燃料コックは閉じてください。
21. 見通しの悪い曲がり角、植え込みや立ち木などの陰では安全に十分注意してください。
22. わき見運転、手放し運転はしないでください。
23. エンジンを停止するときにはエンジン回転を下げてください。  
燃料コックが付いている場合は、燃料コックを閉じてください。
24. 落雷のおそれがあるときは、作業を中断して機械から離れてください。

## 保守と保管

1. 修理・調整・清掃作業の前には、平らな場所で機械を停止し、作業機を下げ、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、キーを抜き取ってください。また、機械のすべての動きが完全に停止したことを確認し作業を行ってください。
2. 機械から離れるときには必ずモアユニットを下げておいてください。ただしモアユニットを上げた位置に確実にロックしておくことができる場合はこの限りではありません。
3. 火災防止のため、エンジンやマフラー、バッテリー、燃料タンクの周囲、作業部の周囲、および駆動部に、余分なグリース、草や木の葉、埃などがたまらないよう注意してください。  
オイルや燃料がこぼれた場合はふき取ってください。
4. 閉めきった場所に本機を保管する場合は、エンジンが十分冷えていることを確認してください。
5. 本機にシートをかけて保管する場合は、過熱部分が十分冷めていることを確認してから行ってください。
6. 炎や火花がある屋内では、タンクに燃料が入った状態で保管しないでください。
7. 機械の保管・搬送時には、燃料コックが付いている機械は、燃料コックを閉じてください。
8. 炎の近くに燃料を保管しないでください。
9. 絶対に訓練を受けていない人に機械を整備させないでください。
10. 点検・整備はマフラーやエンジンが冷めてから行ってください。
11. 調整、整備などに必要な工具類は適切な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。
12. 機械をジャッキアップする場合は、ジャッキスタンドなどを使用し、確実に支えてください。
13. 部品を取り外すときなど、スプリングや油圧などの圧力が一気に解放される場合がありますので、注意してください。
14. 油圧機器を取り外すなど、油圧システムの整備をする場合は、必ず減圧してから行ってください。
15. 油圧システムのラインコネクターは十分に締まっているかを確認してください。油圧をかける前に油圧ラインの接続やホースの状態を確認してください。
16. 油圧回路のピンホール漏出やノズルの油漏れを確認する場合は、絶対に手ではなく、紙や段ボールなどを使用して漏出箇所を探してください。  
高圧オイルは、皮膚を突き破ることがあり、人的事故をおこすおそれがありますので、十分注意してください。  
万一、油圧作動油が体内に入った場合には、この種の労働災害に経験のある施設で数時間以内に外科手術を受けないと壊疽を起こします。
17. 修理作業の前にはバッテリーケーブルを取り外してください。  
先にマイナスケーブルを取り外してからプラスケーブルを取り外してください。

- 取り付ける場合は、プラスケーブルから取り付けてください。
18. 配線などが接触したり、被覆のはがれがないように注意してください。
  19. リールカッターとベッドナイフの点検を行うときには、安全に十分注意してください。  
[1] 必ず手袋を着用してください。  
[2] 刃合わせ調整中は、リールカッターとベッドナイフの間に指が挟まれないように十分注意してください。
  20. 複数のリールカッターを持つ機械では、1つのリールカッターを回転させると他も回転する場合がありますので注意してください。
  21. 可動部に手足を近づけないでください。  
エンジンが作動したままで調整作業をしないでください。
  22. バッテリーの充電は、火花や火気のない換気の良い場所で行ってください。  
バッテリーと充電器の接続や切り離しを行う場合は、充電器をコンセントから抜いておいてください。  
また、ゴム手袋や保護メガネなどを着用し、絶縁された工具を使用してください。
  23. すべての部品が良好な状態にあるか点検を怠らないでください。  
消耗したり破損した部品やラベルは安全のため早期に交換してください。
  24. 常に機械全体の安全を心掛け、ナットやボルト、ねじ類が十分締まっているかを確認してください。
  25. グラスキャッチャーの磨耗や劣化を、こまめに点検してください。
  26. 燃料タンクの清掃が必要になった場合は、屋外で作業を行ってください。

## リサイクルおよび廃棄処分

### リサイクルについて

バッテリーなどは環境保護および資源の有効活用のためにリサイクルされることを推奨します。  
また、地域によっては法律により義務付けられています。

### 廃棄処分について

整備、修理などの作業で出た廃棄物については、地域の法律に従って適切に処分してください。(例：廃油、不凍液、ゴム製品、配線など)

## 1. 使用上の注意事項

### 1-1 注意 高温部の注意



- 運転中および運転停止直後にカバーやマフラーに触れないでください。火傷をするおそれがあります。
- 運転停止直後は、油圧オイルおよび油圧機器が非常に高温になっており、火傷をするおそれがありますので、メンテナンスを行う際には、十分に冷えてから行ってください。

### 1-2 警告 回転部について



- 作業やメンテナンス中、回転部分は危険ですので、回転部分に手足やものを入れたり、触れたりしないでください。
- 石などの障害物は、リールカッター、ベッドナイフの損傷、飛散物の事故などの原因になるので取り除いてから使用してください。万一、障害物がかみ込んだ場合は、エンジンを停止し、駆動部が完全に停止してから取り除いてください。そして、この機械の損傷を確認し、壊れている場合は直ちに修理してください。
- 防護カバー、ベルトカバーは、使用者の危険を防止するものです。破損の場合は交換し、所定の位置に必ず付けてください。

## 2. 警告 傾斜地作業について

傾斜地でのご使用の際は、下記事項を必ず守ってください。なお、地面は平坦ではなく、凹凸や石などがあり、この機械の傾斜角度が急に大きくなる場合が考えられますので、使用最大傾斜角度は15度とします。

- 転倒やスリップのおそれがある場所では、絶対にこの機械を運転しないでください。
- 傾斜地では、作業前に穴、岩石、木の根（その他の不法投棄物）などを取り除き、それらが無いことを確認してから十分気をつけて作業してください。
- 傾斜地での作業は、等高線に沿って行い、旋回は傾斜角度の緩い所で行ってください。

## 3. 安全作業について

芝刈機は、リールカッター（鋭利な刃物）を回転させる機械で、使用する場所、障害物、芝の条件などいろいろありますから、使用者はこの機械の点検整備の徹底をはかり、機械操作の熟練に努め、自己の安全を図ると共に、他人に危害を及ぼさないように、正しくこの機械を使って安全第一に作業されることをメーカーとして強く要望します。

### 3-1 警告 安全のための衣服について



安全のため、この機械に巻き込まれないきちんとした衣服、作業に適した保護具・メガネ・靴・ヘルメット・手袋などを着用してください。前かけ、腰タオルなど、特に長いヒモ類は巻き込まれたり、引っ掛かったりするおそれがあり危険です。

### 3-2 警告 こんなときは運転しない

体調が悪いとき、この機械の操作に不慣れな場合などに運転すると、思わぬ事故を起こすことがあります。次の場合は、運転しないでください。

- ① 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- ② 酒を飲んだとき。
- ③ この機械の操作が未熟な人。
- ④ 妊娠しているとき。

### 3-3 注意 この機械を他人に貸すとき

この機械を他人に貸すときは、本書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領が分からないため、思わぬ事故を起こすことがあります。取扱方法をよく説明し、本書を渡して使用前にはよく読むように指導してください。

### 3-4 注意 この機械の改造禁止

この機械の改造はしないでください。この機械の改造や、当社指定以外の部品などを取り付けて運転すると、この機械の故障や人的・物的事故を招くことがあります。部品および油脂類の交換をするときは、当社が指定するものを使用してください。

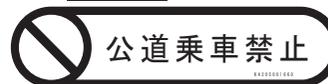
### 3-5 注意 マフラー・エンジン回りのごみは取り除く

エンジン冷却風入口、エアクリーナー空気取入口、マフラー・エキゾーストパイプ部に刈り取った芝などの異物が溜まりますと、エンジン不調、オーバーヒートなど火災の原因になりますので、直ちに作業を中断し、過熱部が十分冷めるのを待って、取り除いてください。

### 3-6 警告 夜間走行・作業の禁止

この機械は照明装置を備えていませんので、夜間や視界の悪いときは走行、作業は行わないでください。

### 3-7 注意 一般道走行の禁止



この機械は型式認定を受けておりませんので、一般道路の走行はできません。

## 4. 特長

- この機械はセルモーター付最大出力 11.8 kW (16 PS) のガソリンエンジンを搭載した乗用 3 連フロントモアです。
- 低重心・ワイドトレッドにより、斜面でも安定のある操縦性が得られ、またステアリングは後輪式ですので、小回りが出来ます。
- 走行は油圧可変ポンプとホイールモーターの組み合わせにより無段変速で、任意の速さが得られ、前後進の切り替えもペダルひとつで簡単に操作できます。
- モアユニットの昇降は油圧方式で、リール駆動は V ベルト方式です。またモアユニットは前後・左右がフリーに取り付けてありますから、地面の凹凸に沿ってきれいに刈り込むことができます。

## 5. 仕様

型式		LM185B (2 駆)	LM185BW (3 駆)	
寸法	全長	226 cm		
	全幅	197 cm		
	全高	118 cm		
質量	本体 (燃料タンク空)	グラスキャッチャー無	552 kg	584 kg
	グラスキャッチャー (1 台分)		15 kg	
最小回転半径		174 cm		
エンジン	型式	バンガード 305447		
	種類	空冷 4 サイクルガソリンエンジン		
	総排気量	448 cm <sup>3</sup> (0.448 L)		
	最大出力	11.8 kW (16.0 PS) /3,600 rpm		
燃料タンク容量		ガソリン 16.0 dm <sup>3</sup> (16.0 L)		
燃料消費率		217 g/kW・h (定格出力時)		
エンジンオイル容量		1.66 dm <sup>3</sup> (1.66 L)		
作業幅 (刈幅)		180 cm		
作業範囲 (刈高)		10.0 - 40.0 mm		
リール刃数		5 枚・7 枚		
駆動方式	走行	HST (無段変速) 方式 (2 駆)	HST (無段変速) 方式 (2 駆・3 駆切り替え)	
	作業部	メカ方式	メカ方式	
速度 (HST)	前進	0 - 12.5 km/h	0 - 8.6 km/h (3 駆時)	
	後進	0 - 10.0 km/h	0 - 6.8 km/h (3 駆時)	
速度 (メカ)		-		
能率		11,520 m <sup>2</sup> /h (8.0 km/h x 刈幅 x 0.8)		
使用最大傾斜角度		15 度		
タイヤサイズ	前輪	M40B 20 × 1000 - 8		
	後輪	PD1.16 × 6.50 - 8		
タイヤ空気圧	前輪	70 kPa (0.7 kgf/cm <sup>2</sup> )		
	後輪	100 kPa (1.0 kgf/cm <sup>2</sup> )		
バッテリー		40B19L		

※ 出荷時のエンジン最高回転速度は、2,700 rpm

## 6. 各部のラベル

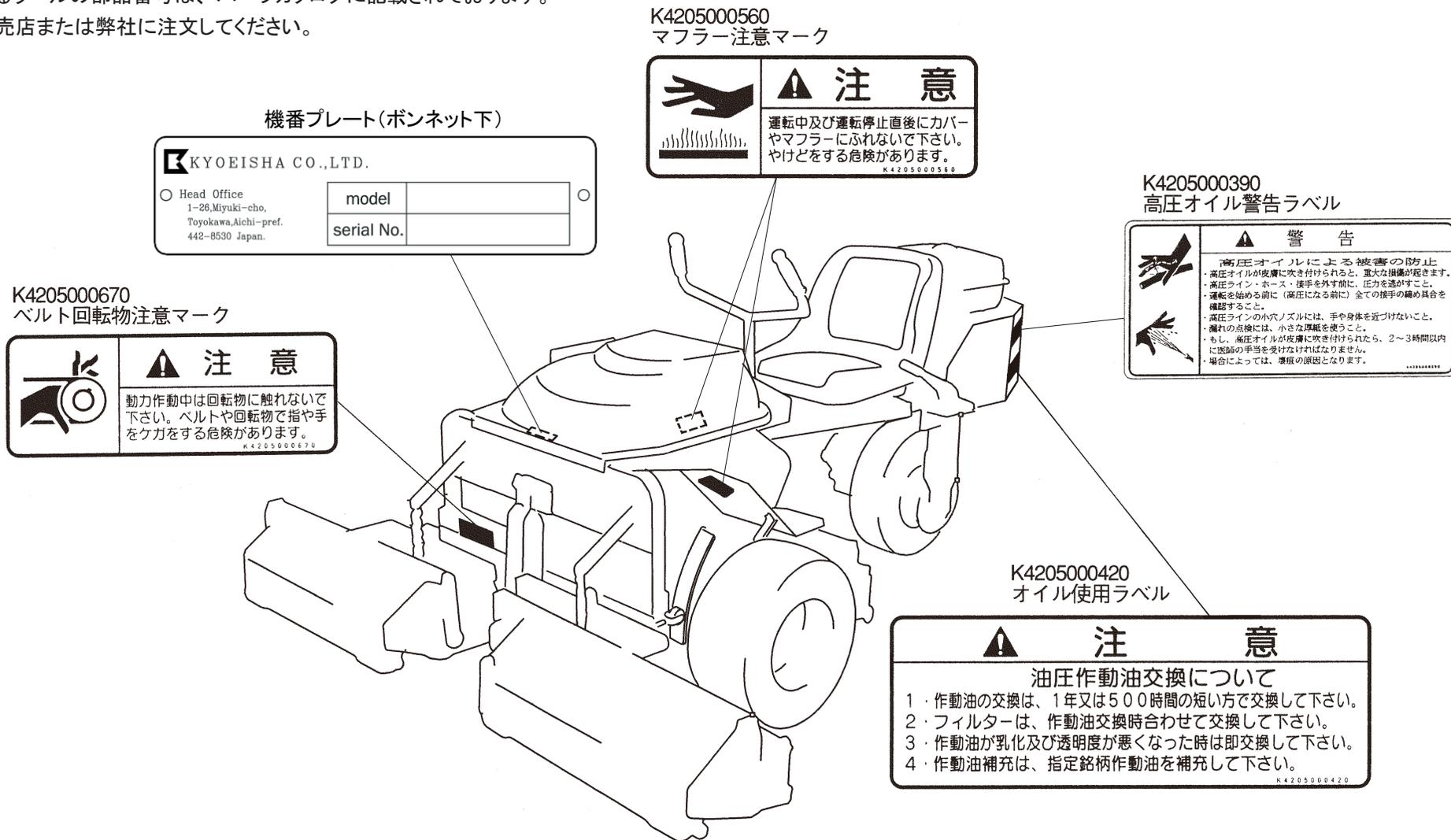
### 警告ラベルと指示ラベルについて

#### 重要

この機械には、警告ラベルと指示ラベルが貼り付けられています。  
ラベルはきれいに保ち、損傷や汚れ、はがれがあった場合は、新しいものと交換してください。

交換するラベルの部品番号は、パーツカタログに記載されています。

購入販売店または弊社に注文してください。



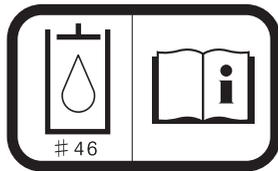
**注意**

取扱上の注意

- ・この機械を運転する前に取扱説明書を熟読し十分機械の操作を理解してから運転して下さい。
- ・危険・警告・注意等ラベルの指示にしたがって行動しないと死傷又はケガをする結果となります。
- ・マークやラベルの説明文はきれいに保ち、無くなったり損傷があった場合には、新しいものに交換して下さい。

K4205000630

取扱上の注意



油圧作動油マーク

# BARONESS

BARONESSマーク121

K4203000530  
エンジン回転シール



**注意**

3輪駆動走行での注意

3輪駆動での急な下り坂の走行は危険ですので2輪駆動に切り換えて下さい。

K4205000910

K4205000910  
3駆走行注意マーク

K4205001660  
公道乗車禁止マーク



**注意**

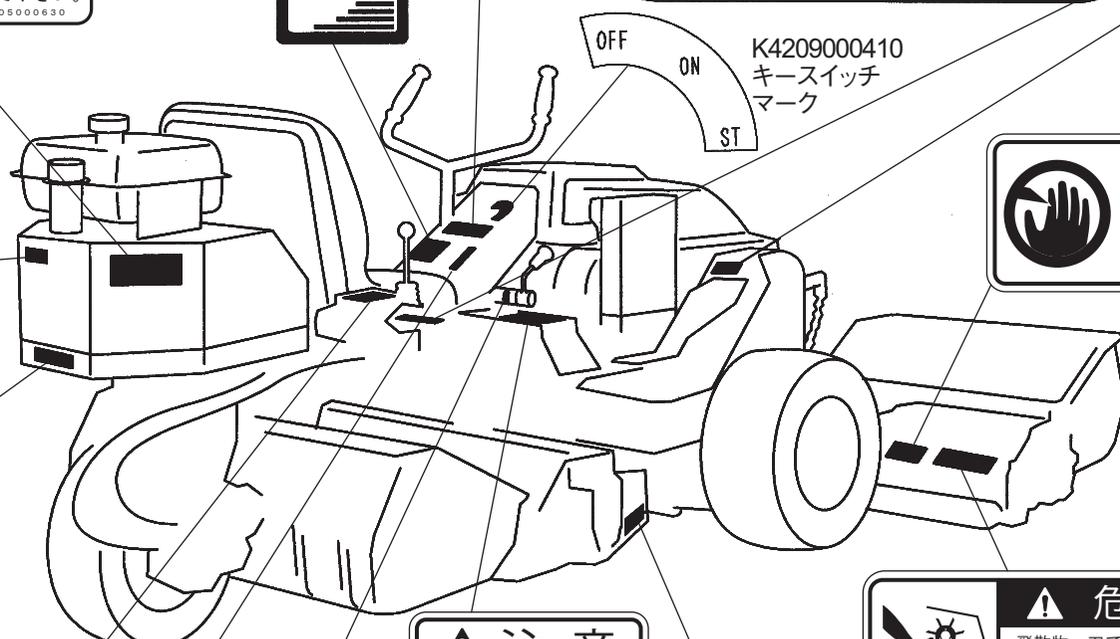
前進

後進

エンジン始動時にはペダルに足をのせないで下さい。

K4205000930

K4205000930  
走行ペダル注意マーク

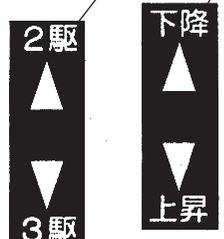


**危険**

リールに異物を巻込んだ時は、エンジンを停止してから取り除くこと。手足をケガします。

K4205000890

K4205000890  
リール異物巻込危険ラベル



K4203000810  
2駆・3駆切換レバーマーク

K4203000830  
昇降レバーマークB

K4203000410  
リールの回転マーク

**注意**

(クラッチ)

テンションクラッチは作業直前に入れ、それ以外の時は必ず切っておいて下さい。

K4205000650

K4205000650  
クラッチ注意事項

**危険**

- ・飛散物、刃でケガをしないよう気を付けること。
- ・運転中、まわりに人がいないか破損する恐れのないか確認し作業をすること。
- ・リールカバー、クラッチカバーは必ず取付けて使用すること。

K4205000330

K4205000330  
リールモア危険マーク

**注意**

動力作動中は回転物に触れないで下さい。ベルトや回転物で指や手をケガをする危険があります。

K4205000670

K4205000670  
ベルト回転物注意マーク

## 7. 使用前の点検

### 7-1 ベルトの張り具合の点検



ベルトの調整を行う場合は、必ずエンジンを停止してください。

#### 重要

ベルトの張りは、規定値を確認してください。

規定値であるかの確認は、ベルトを数回転させた後に行ってください。

使用頻度により、ベルトが緩いと踊ったり、スリップする可能性があります。

また、張り過ぎると損傷が早くなる可能性があります。

必要に応じて調整し、いつも適正な張り具合に保ってください。

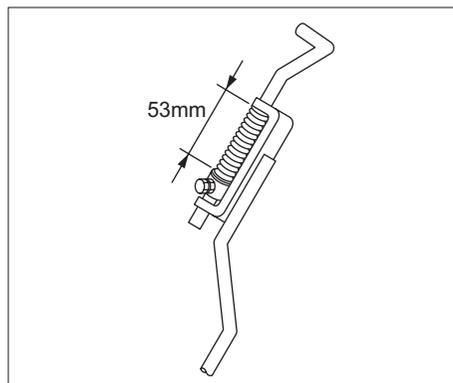
エンジン－中間軸、中間軸－モアユニット、エンジン－油圧ポンプ間のベルトの張り具合を点検してください。

必要に応じて、テンションプーリーを動かして調整してください。

#### ベルトの調整値

##### A. エンジン－中間軸間

テンション調節ロッドとタップ付カラーの間の  
コイル部分の長さ約 53mm

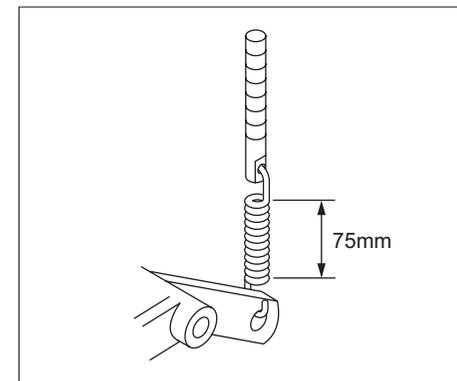


##### B. 中間軸－リール / パーチカルカッター 間

中間軸とリール / パーチカルカッターの間のベルトの調整は、平らなところでモアユニットを下げてから行ってください。

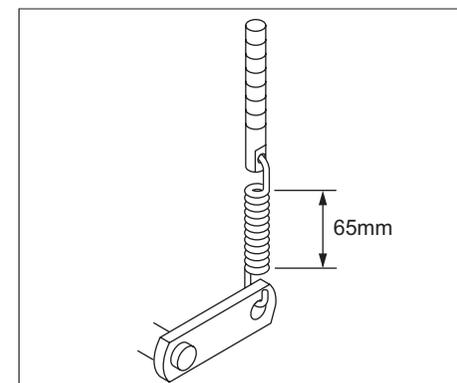
##### 前モアユニット（左右）

調節ネジ下のフックバネのコイル部分の長さ  
75mm



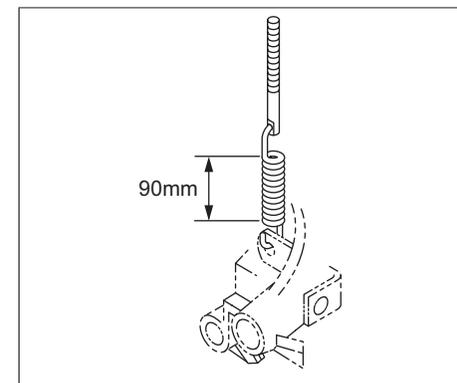
##### 後モアユニット

調節ネジ下のフックバネのコイル部分の長さ  
65mm



##### C. エンジン－油圧ポンプ 間

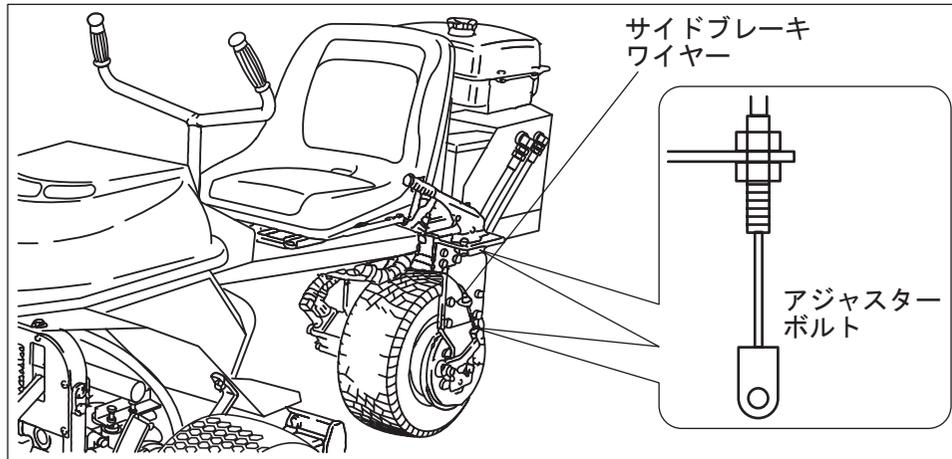
調節ネジ下のフックバネのコイル部分の長さ  
90mm



## 7-2 サイドブレーキの点検

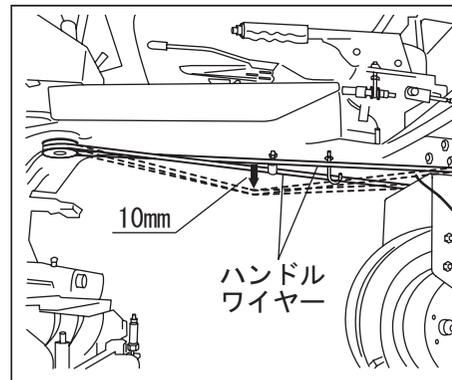
サイドブレーキワイヤーが伸びましたらワイヤーの両端に付いているアジャスターボルトをスパナなどで回して、ワイヤーを張ってください。

サイドブレーキレバーを引いたとき、ブレーキが効くことを確認してください。プッシュボタンを押し、サイドブレーキレバーを戻したとき、ブレーキの引きずりが無いことを確認してください。



## 7-3 ハンドルワイヤーの点検

ハンドルと後輪を直進状態にしてください。左右のハンドルワイヤーの中間位置を指で各々押し、たわみ量を点検してください。たわみ量の基準値は 10 mm です。基準値と異なる場合は、ハンドルワイヤーのロックナットを緩めて基準値になるようにナットをスパナで回して調整してください。ハンドルと後輪が直進状態になるように注意してください。



## 7-4 タイヤ空気圧の点検

タイヤの空気圧が適正であるか調べます。

前輪 70 kPa (0.7 kgf / cm<sup>2</sup>)

後輪 100 kPa (1.0 kgf / cm<sup>2</sup>) が適正です。

また、亀裂、損傷、異常磨耗などが無いか調べてください。

## 7-5 刃の切味の点検

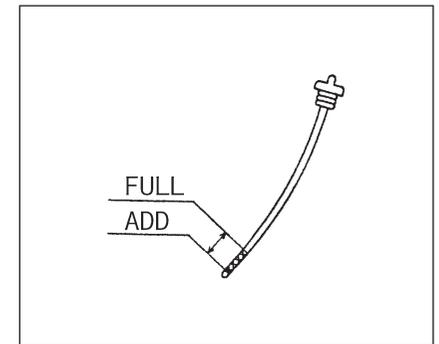
(9-1 モアの調整 を参照)

## 7-6 エンジンオイル量と汚れの点検

### ▲注意

オイルディップスティックはオイルフィルターの曲がりに合せ挿入し、オイルディップスティックキャップ、オイル注入プラグは確実にねじ込んでください。締めが不十分な場合はクランクケース内の負圧が保たれず、エアクリーナーへのオイル上がりを起こします。

オイルは、エンジンを水平にして、オイルディップスティックを抜き、先端をきれいにふき取り、それを給油口へ差し込んでキャップを確実にねじ込み、再び引き抜いて点検します。上のきざみ線まであるかどうかを点検し、不足の場合は補給し、汚れている場合は交換してください。約 1.6 dm<sup>3</sup> (1.6 L) 入ります。オイル交換は、初回は 20 時間、2 回目より 50 時間ごとです。



## 7-7 バッテリーの点検

### ▲危険



バッテリーの点検や充電時は火気厳禁です。また、バッテリー液は希硫酸ですので身体や車体に付けしないでください。もし付着した場合は直ちに水でよく洗い、特に目に入ったときや飲み込んだ場合は、速やかに医師の治療を受けてください。

バッテリーの点検は 6 ヶ月ごとに行いますが、その間でも不足している場合は規定範囲になるまで蒸留水を補充してください。

バッテリーからケーブルを外すときはマイナス側から外し、取り付けるときはプラス側から取り付けてください。逆にすると工具などが機体に接触した場合ショートして火花が生ずるおそれがあります。

バッテリーケーブルを接続するときにはプラスとマイナスを間違えないようにしてください。もし間違えた場合、バッテリーやバッテリー電装品を損傷させます。

## 7-8 油圧作動油の点検

油圧タンクには約 20 dm<sup>3</sup> (20 L) の作動油が入っています。タンクの油量ゲージの中心まで油面があるかどうか点検し、不足している場合は、補給してください。作動油の交換は、初回 100 時間、以後は 500 時間または 1 年のいずれか早い周期で、そのときオイルフィルターも交換してください。また、作動油が乳化および透明度が少しでも悪くなった場合は、直ちに交換してください。(油圧作動油は、シェルテラス S2M46 または相当品を使用してください。)

## 7-9 各部油漏れの点検

油圧ホースの継ぎ金具、パイプの連結部、ポンプ・シリンダーなどの継ぎ部から、50 時間くらい使用しますと締め付け部の緩みなどで、油が漏れることがありますので、増し締めをしてください。

## 8. 各部の締め付け

### 重要

各部には、ボルト止めが多く使われております。  
使用初期はボルト、ナットなどの緩みが出る場合がありますので、必ず増し締めを行ってください。

### 8-1 締め付けトルク

特別指示の無いボルト、ナットは、適切な工具により適正な締め付けトルクで締め付けてください。

締め付けが強すぎると「ねじ」は緩んだり、破損したりします。

締め付け強さは、ねじの種類、強度、ねじ面や座面の摩擦などで決めております。

一覧表は、亜鉛メッキまたはパーカー処理したボルトを対象としております。めねじの強度が弱い場合は適用できません。

さびていたり、砂などが付着している「ねじ」は、使用しないでください。

所定の締め付けトルクを与えても締め付け不足になります。

ねじ面の摩擦が大きくなり、締め付けトルクのほとんどを摩擦損失し、締め付ける力になりません。

「ねじ」が水や油で濡れている場合は、通常の締め付けトルクで締めないでください。ねじが濡れるとトルク係数が小さくなり、締め過ぎになります。

締め過ぎると、ねじが伸びて緩んだり、破損することがあります。

一度、大きな負荷がかかったボルトは、使用しないでください。

インパクトレンチで締めるときは、熟練が必要です。

できるだけ安定した締め付け作業ができるように練習してください。

呼び径	一般ボルト 強度区分 4.8		
			
	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	3 - 5	30.59 - 50.99	26.55 - 44.26
M6	7 - 9	71.38 - 91.77	61.96 - 79.66
M8	14 - 19	142.76 - 193.74	123.91 - 168.17
M10	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34
M12	52 - 67	530.24 - 683.20	460.25 - 593.02
M14	70 - 94	713.79 - 958.52	619.57 - 831.99
M16	88 - 112	897.34 - 1142.06	778.89 - 991.31
M18	116 - 144	1,182.85 - 1,468.37	1,026.72 - 1,274.54
M20	147 - 183	1,498.96 - 1,866.05	1,301.10 - 1,619.73
M22	295	3,008.12	2,611.05
M24	370	3,772.89	3,274.87
M27	550	5,608.35	4,868.05
M30	740	7,545.78	6,549.74

呼び径	一般ボルト 強度区分 8.8		
			
	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	5 - 7	50.99 - 71.38	44.26 - 61.96
M6	8 - 11	81.58 - 112.17	70.81 - 97.36
M8	23 - 29	234.53 - 295.71	203.57 - 256.68
M10	45 - 57	458.87 - 581.23	398.30 - 504.51
M12	67 - 85	683.20 - 866.75	593.02 - 752.34
M14	106 - 134	1,080.88 - 1,366.40	938.21 - 1,186.03
M16	152 - 188	1,549.94 - 1,917.04	1,345.35 - 1,663.99
M18	200 - 240	2,039.40 - 2,447.28	1,770.20 - 2,124.24
M20	245 - 295	2,498.27 - 3,008.12	2,168.50 - 2,611.05
M22	-	-	-
M24	-	-	-
M27	-	-	-
M30	-	-	-

呼び径	一般ボルト 強度区分 10.9		
			
	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	7 - 10	71.38 - 101.97	61.96 - 88.51
M6	14 - 18	142.76 - 183.55	123.91 - 159.32
M8	28 - 38	285.52 - 387.49	247.83 - 336.34
M10	58 - 76	591.43 - 774.97	513.36 - 672.68
M12	104 - 134	1,060.49 - 1,366.40	920.50 - 1,186.03
M14	140 - 188	1,427.58 - 1,917.04	1,239.14 - 1,663.99
M16	210 - 260	2,141.37 - 2,651.22	1,858.71 - 2,301.26
M18	280 - 340	2,855.16 - 3,466.98	2,478.28 - 3,009.34
M20	370 - 450	3,772.89 - 4,588.65	3,274.87 - 3,982.95
M22	530	5,404.41	4,691.03
M24	670	6,831.99	5,930.17
M27	1,000	10,197.00	8,851.00
M30	1,340	14,628.78	11,860.34

参考：「細目ねじ」についても、同じ数値とする。

## 8-2 機種別締め付けトルク

### LM185B / BW

次のボルト、ナットは下記のトルクで締め付けてください。

ねじ緩み止め剤は、ネジロック中強度（スリーボンド 1322 相当品 嫌気性封着剤）を塗布してください。

使用部位		コード番号	品名	締め付けトルク			ねじ緩み止め剤
				N-m	kgf-cm	lb-in	
ステアリングブーリー		K0010100602	10 調質ボルト 60	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	-
		K0010100702	10 調質ボルト 70	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	-
前輪 (LM185B ~ SN20087) (LM185BW ~ SN20334)	ホイール取付座	K0138240002	24 みぞ付ナット高 P1.5	180 - 200	1835.46 - 2039.40	1593.18 - 1770.20	-
	ホイール	K0034120452	12 調質 8T ボルト 45P1.5	67 - 85	683.20 - 866.75	593.02 - 752.34	-
前輪 (LM185B SN20088 ~ ) (LM185BW SN20335 ~ )	ホイール取付座	K0160000492	24 特殊ナット P1.5	180 - 200	1835.46 - 2039.40	1593.18 - 1770.20	○
	ホイール	K0011120302	12 調質ボルト 30P1.5	67 - 85	683.20 - 866.75	593.02 - 752.34	-
LM185B 後輪	後輪ブラケット	K0021100202	10 フランジ付ボルト 20	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	-
	後輪軸	K0105160002	16 ナット 3P1.5	88 - 112	897.34 - 1142.06	778.89 - 991.31	-
	ホイール	K0010100202	10 調質ボルト 20	58 - 76	591.43 - 774.97	513.36 - 672.68	-
	ホイール	K0010100302	10 調質ボルト 30	58 - 76	591.43 - 774.97	513.36 - 672.68	-
LM185BW 後輪	後輪ブラケット	K0021100202	10 フランジ付ボルト 20	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	-
	ホイール取付座	K0138240002	24 みぞ付ナット高 P1.5	180 - 200	1835.46 - 2039.40	1593.18 - 1770.20	-
	ホイール	K0013101402	10 調質ボルト 140	58 - 76	591.43 - 774.97	513.36 - 672.68	-
	ブレーキ ASSY	K0010080252	8 調質ボルト 25	14 - 19	142.76 - 193.74	123.91 - 168.17	-
ベッドナイフ		K0071000092	10 調質さら小ねじ 20	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	-

## 9. 使用前の調整

### 9-1 モアの調整

#### 刈高調整

刈り込み作業に応じて刈高を調整してください。

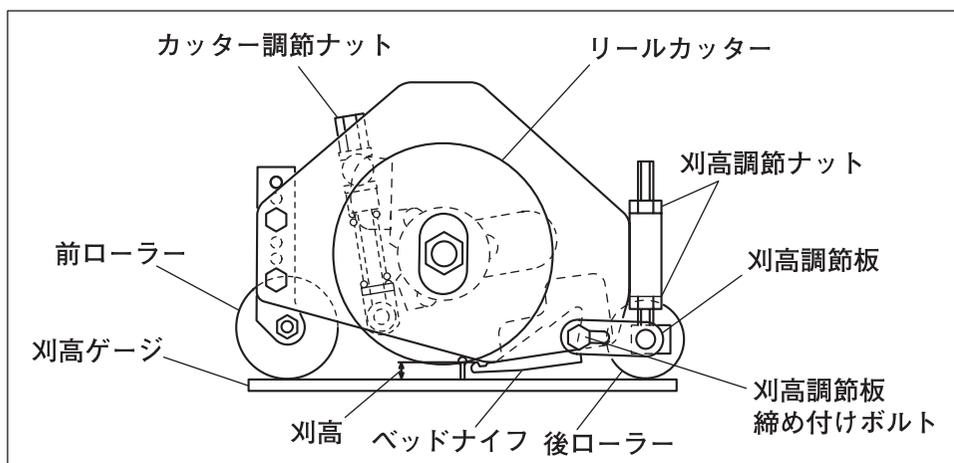
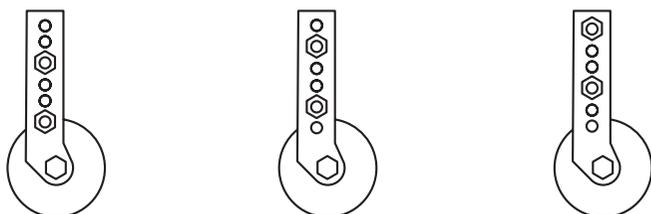
前ローラーは下図のように3段階の調整ができます。

前ローラー刈高範囲

( 10 ~ 22 mm )

( 20 ~ 30 mm )

( 28 ~ 40 mm )



あらかじめ作業に適した刈高範囲の位置に前ローラーを取り付けます。後ローラーは刈高調節板締め付けボルトを緩め、刈高ゲージにて位置を決め、刈高調節ナットおよび刈高調節板締め付けボルトを確実に締め付けてください。

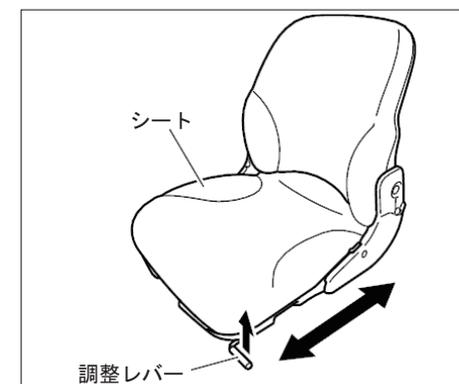
#### 刃合わせ調整

リールカッターとベッドナイフの刃合わせ調整はカッター調節ナットにより、刃先全面を均一に接触させ、新聞紙（2枚）が切れるようにしてください。

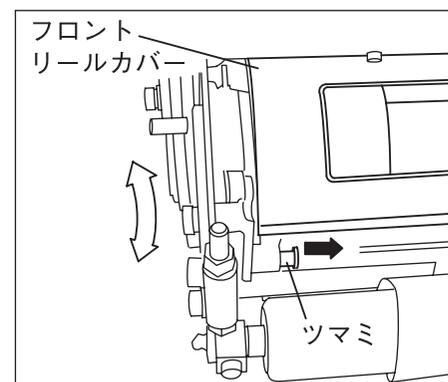
調整して切れないときは、早めにバックラッピングをしてください。

#### 9-2 シートの調整

シートは前後に調整できるように、シート左側にレバーが付いていますので、体に合せて調整してください。

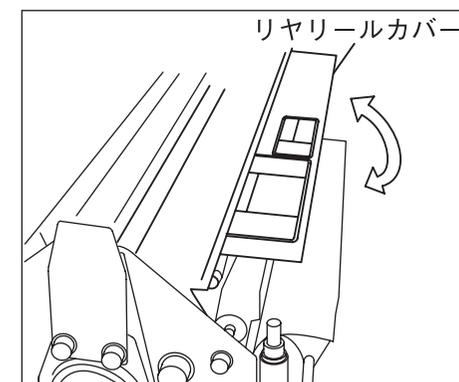


#### 9-3 リールカバーの調整



集草箱を取り付ける場合はツマミを引きながらフロントリールカバーを下ろしてください。

集草箱がない場合はツマミを引きながらフロントリールカバーを上げてください。



芝の状態に合わせてリヤリールカバーの角度を調整してください。芝の排出の強さを調整できます。

## 10. 作業時の操作方法

### ▲注意

坂を下る場合は、重心が前になり後輪が浮き上がるために、ハンドルを操作しても方向が定まらず危険ですから、低速で注意して移動してください。

1. 変速ペダルの前方を踏み込むことにより前進し、後方を踏み込むことにより後進し、エンジン回転に関係なく速さは自由になります。
2. モアを下ろす場合、モア昇降用スイッチでモアを完全に下ろしてください。
3. 凹凸面の刈り込み作業は、刈り込み速さを遅くして行います。ただしエンジン回転は一定のままで、走行速さを遅くします。

## 11. 各部の操作方法

### 機械操作上の注意

### ▲注意

どのような場合にも、緊急停止ができる速さで運転してください。

### 機械を離れるときの注意

### ▲注意

ブレーキの効きが悪いときは、車輪止めを使用し、固定してください。

### 11-1 エンジン始動・停止

#### ▲危険 燃料の取り扱いについて

- 火気厳禁です。燃料給油時は、タバコを吸ったり火花を出したりしないでください。
- 給油はエンジンを停止し、エンジンを十分に冷やしてから行ってください。
- こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

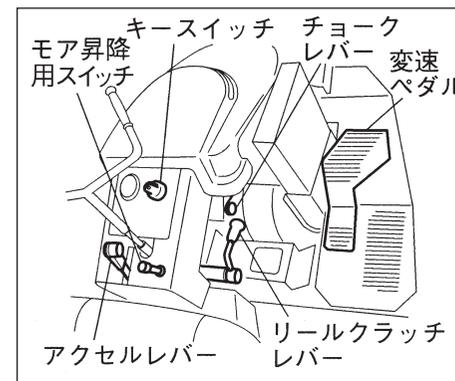
#### ▲警告 エンジンを始動する前に

- この機械の周囲に人や障害物が無いか安全を確認してください。
- カバーなどの防護部品、防護装置が正しく取り付けられているか、損傷していないか確認してください。
- 室内など適切な換気装置の無い場所では運転しないでください。

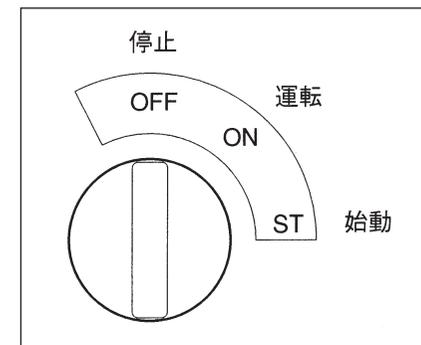
### 重要

シート、サイドブレーキにはセーフティスイッチが付いていて、サイドブレーキをかけずにオペレーターがシートから離れると自動的にエンジンが停止するようになっています。このスイッチによってエンジンが停止した場合は、必ずキースイッチを「停止」の位置に戻しておいてください。(バッテリー上がりの原因になります。) またシートに座っていない、またはサイドブレーキレバーを引いていないとエンジンは始動しません。

- ① シートに座り、エンジン始動前に必ずリールクラッチレバーを『切』の位置にし、変速ペダルは踏まずに中立位置にします。アクセルレバーは低速位置にし、チョークレバーをエンジンが冷えているときは全閉に、一度暖まったエンジンの再始動は全開もしくは半開にします。



- ② キーをキースイッチに差し込み、右に1段ひねると運転位置となり、2段目で始動位置となり、セルモーターが始動します。エンジンが始動したらキーから手を離します。キーは自動的に運転位置に戻ります。
- ③ エンジン始動後、チョークレバーをゆっくり全開の位置に戻し、負荷をかけずに約5分間低速で暖気運転します。
- ④ 暖気運転後、スロットルレバーを徐々に高速側にし、所要回転にセットします。
- ⑤ エンジンを停止するには低速で1～2分位運転してから、キースイッチを「停止」の位置にします。



## 11-2 モア昇降用スイッチ

モア昇降用スイッチはハンドルの右下にあり、手前に引くと、モアが上がり、押すと、モアが下がります。

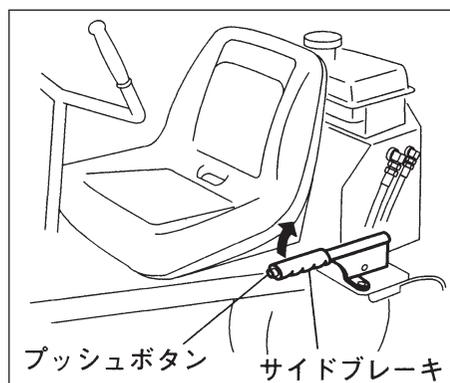
## 11-3 リールクラッチレバー

リールクラッチレバーはハンドルの右側にあり、刈り込み作業直前に入れ、刈り込み作業以外のときは必ず切っておいてください。またモアが上っているときもリールクラッチレバーは入れないでください。

なお、リール軸の回転が安定するまで、半クラッチを使用して急にクラッチを入れないでください。

## 11-4 サイドブレーキ

サイドブレーキレバーはシート左後部に取り付けてあります。駐車時はいっばいに引いてください。戻すときはプッシュボタンを押して確実に戻してください。



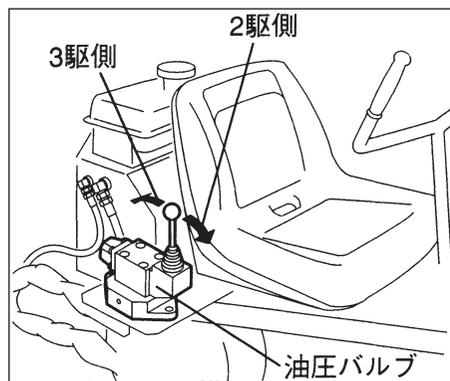
## 11-5 3輪駆動の切り替え (LM185BW のみ)

### ▲注意 3輪駆動走行での注意

3輪駆動での急な下り坂走行は危険ですので、2輪駆動に切り替えてください。

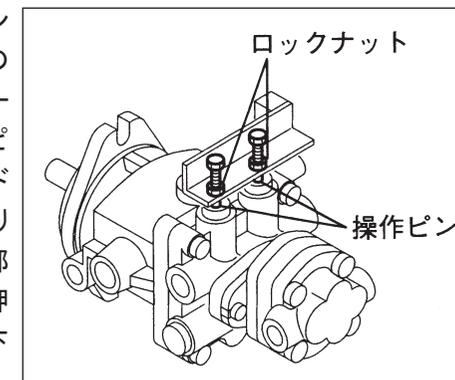
2輪駆動と3輪駆動の切り替えはシートの右後部にある油圧バルブのレバーで行います。

**3駆**側に倒すと3輪駆動となり、**2駆**側に倒すと2輪駆動になります。作業条件に合わせて、使用してください。



## 11-6 油圧ポンプ・アンロードバルブの操作方法

アンロードバルブは油圧ポンプの回路をアンロード（無負荷）にするバルブで、動力系の故障でこの機械が動かないときに、アンロードにすると移動できるようになります。操作ピン（2か所）が上に出ているときはオンロードです。（走行中にアンロードになることはありません。）アンロードにするには操作ピン上部のロックナットを緩めボルトを締め、ピンを押し込みロックナットを締めます。（左ステップ下方にあります。）



## 12. メンテナンス

### 12-1 メンテナンス上の注意

#### 警告 高圧オイルによる被害の防止



- 高圧オイルが皮膚に吹き付けられると重大な損傷が起きます。
- 高圧ライン・ホース・継手を外す前に圧力を逃がしてください。
- 漏れの点検には、小さな厚紙を使ってください。もし、高圧オイルが皮膚に吹き付けられたら 2 ～ 3 時間以内に必ず医師の手当てを受けてください。

#### 注意



- ① 実施するメンテナンスを熟知してから行ってください。
- ② メンテナンスは平坦で乾燥したきれいな場所で行ってください。
- ③ この機械の作動中は、給油やメンテナンスを行わないでください。
- ④ 駆動・作動部分には、手足を近づけないでください。駆動・作動部分のメンテナンスは、手足が巻き込まれないように十分に注意して行ってください。
- ⑤ すべての駆動を断ち、各コントロールを操作して圧力を解除してください。
- ⑥ すべての部品は、良い状態で正しく取り付けてください。
- ⑦ メンテナンスは、モアを下ろしてから行ってください。
- ⑧ モアを上げたまま作業するときは、安全で確実なサポートをしてください。
- ⑨ 損傷部品は直ちに修理または交換をしてください。
- ⑩ 磨耗損傷部品は、必ず交換してください。
- ⑪ この機械の改造は行わないでください。
- ⑫ ゴミやグリース、オイルの付着は取り除いてください。
- ⑬ 電気システムのメンテナンスをする前には、必ずバッテリーのマイナス（－）配線を外してください。
- ⑭ メンテナンスをする際に必要な工具は、目的にあったものを使用してください。
- ⑮ 常に安全に、最高の性能でお使い頂くために、交換部品やアクセサリは BARONESS 純正部品をお求めください。純正部品以外の部品をご使用になった場合、製品保証を受けられなくなる場合がありますので、ご注意ください。

### 12-2 メンテナンススケジュール

(○…点検・調整、補給、清掃 ◎…交換)

		使用前	20H	50H ごと	100H ごと	500H ごと
	各部のボルトの緩み	○				
	刈草、ゴミなどの堆積	○				
エンジン	エンジンオイル	○	◎（初回）	◎		
	エアクリーナー	○				
	点火プラグ			○		
	燃料ストレーナー			○		
本体	油圧オイル	○			◎（初回）	◎
	油圧オイルフィルター				◎（初回）	◎
	バッテリー液	○				
	グリースアップ ※			○		
	V ベルト	○				
	サイドブレーキ	○				
	タイヤ空気圧	○				
	油圧ホース・配管	○		○		
モア	刃の切れ具合	○				
	グリースアップ ※			○	○	

※ 14. グリースアップ を参照。

## 13. ジャッキアップ

### 13-1 ジャッキアップについて

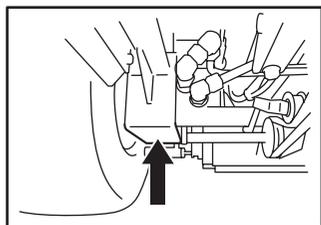


警告  
 タイヤ交換などの整備や修理を行う場合は、必ず輪止めなどをして、この機械が動かないようにしてください。  
 機械をコンクリートなどの堅い平らな床に確実に駐車し、機械をジャッキアップする前に安全作業の妨げになる障害物を取り除いてください。  
 必要に応じ、適切なチェーンブロックやホイスト、およびジャッキを使用してください。  
 持ち上げている機械は、ジャッキスタンドや適切なブロックを使用し、確実に支えてください。  
 ジャッキスタンドや適切なブロックで機械を確実に支えられていない場合は、機械が動いたり、落ちたりするおそれがあります。  
 人身事故の原因となります。

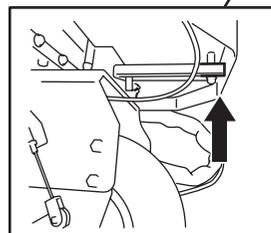
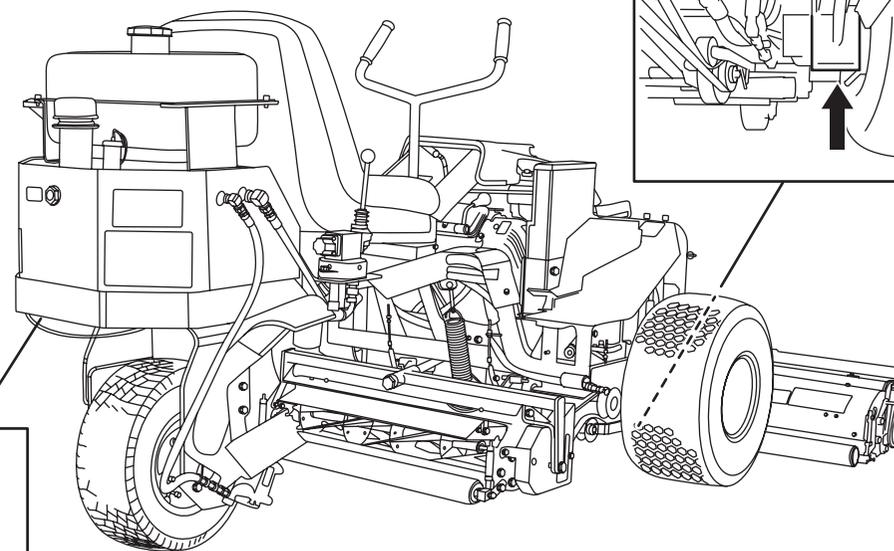
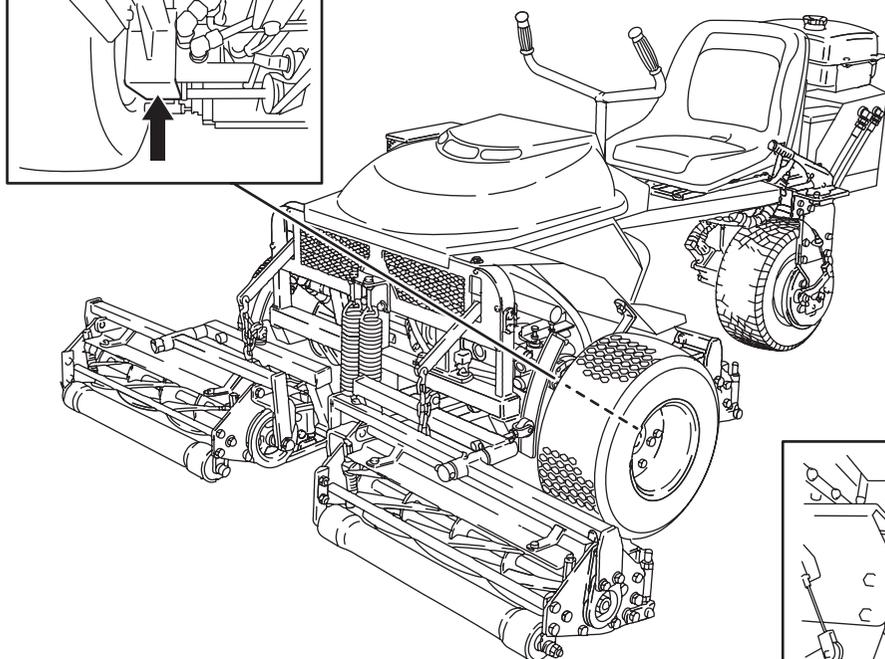
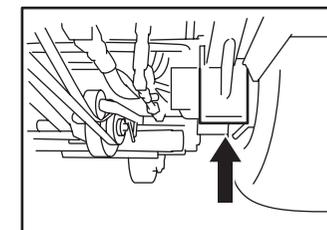
機械をジャッキアップする場合は、ジャッキアップポイントに記載してある位置で行ってください。  
 指示された位置以外では、ジャッキアップしないでください。フレームや部品が破損するおそれがあります。

### 13-2 ジャッキアップポイント

左前輪ホイールモーター下のフレーム



右前輪ホイールモーター下のフレーム



フレーム後端と油圧タンク取り付けボルト

## 14. グリースアップ

### 14-1 グリースアップについて

可動部がグリース切れにより、固着したり、破損したりする可能性がありますので、グリースアップの必要性があります。

各モアの取り付けアーム部、各軸受部にグリースニップルまたは、油穴が設けてありますから注油を忘れないように適時行ってください。

モアアーム・モアリフトアーム・ハンドル・V ベルトテンションレバー・変速ペダル・アイドル軸・リール受け金具部・テンション切りレバーの各軸受部・モア前後ローラー……50 時間ごと  
 その他は 100 時間ごと

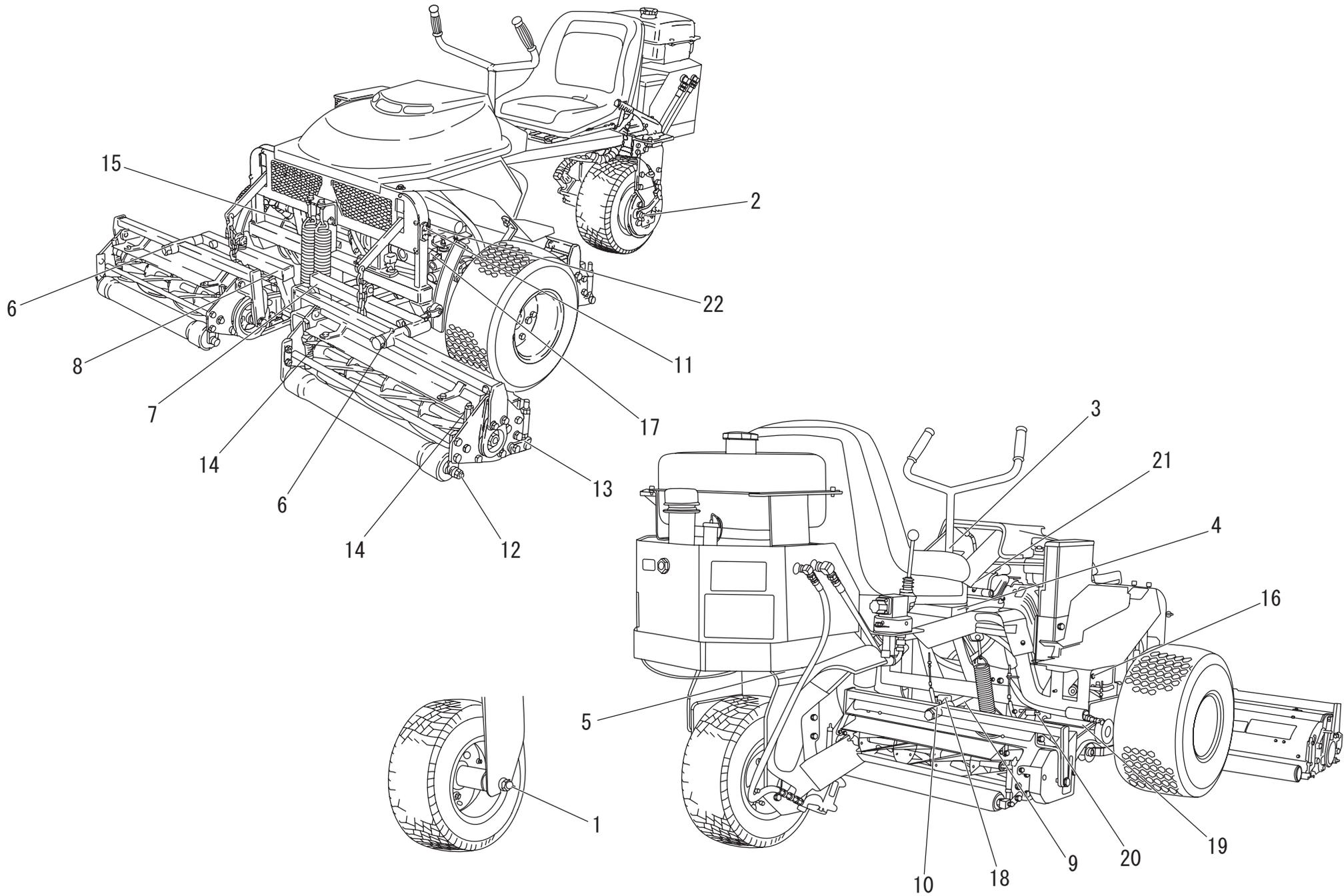
メンテナンススケジュールに従って、ウレア系 2 号グリース（一部 SAE90 ギヤオイル）を注油してください。

その他指定のグリース、潤滑油を使用する場所は、「グリースアップ位置」に記載されています。

指定のグリース、潤滑油でグリースアップしてください。

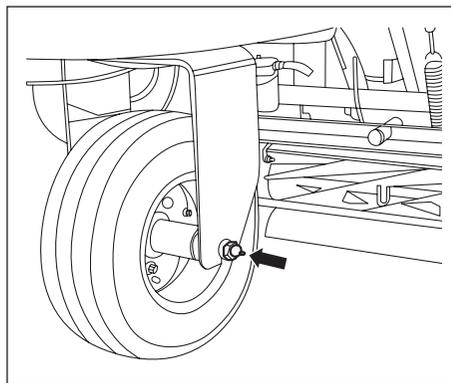
### 14-2 グリースアップ位置

ハンドル後輪関係			スケジュール	モアユニット部			スケジュール
1	後輪軸 (2WD 専用)	2 か所	100h ごと	12	前ローラー	6 か所	50h ごと
2	ブレーキレバー付カム軸	1 か所	100h ごと	13	後ローラー	6 か所	50h ごと
3	ハンドル	1 か所	50h ごと	14	リールハウジング	6 か所	50h ごと
4	ハンドルプーリー (ワイヤー)	1 か所 (モリスピードグリス No. 2)	100h ごと	ペダル部			
5	ステアリングプーリー (ワイヤー)	1 か所 (モリスピードグリス No. 2)	100h ごと	15	走行ペダルアイドルレバー	1 か所	50h ごと
リフトアーム関係				16	走行ペダル	1 か所	50h ごと
6	前モアアーム	2 か所	50h ごと	テンションレバー部			
7	モアリフトアーム左	1 か所	50h ごと	17	ポンプテンションレバー	1 か所	50h ごと
8	モアリフトアーム右	1 か所	50h ごと	18	テンションレバー左モア	1 か所	50h ごと
9	モアリフトアーム後	1 か所	50h ごと	19	テンションレバー後モア	1 か所	50h ごと
10	後モアアーム	1 か所	50h ごと	20	テンションレバー右モア	1 か所	50h ごと
11	吊上げ支点軸	2 か所	50h ごと	21	モアテンションレバー	1 か所 (ギヤオイル注油)	50h ごと
				22	テンション切りレバー	1 か所 (ギヤオイル注油)	50h ごと



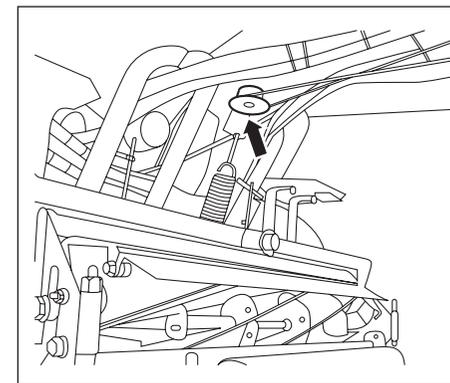
### 1. 後輪軸 (2WD 専用)

左右に1か所ずつあります。

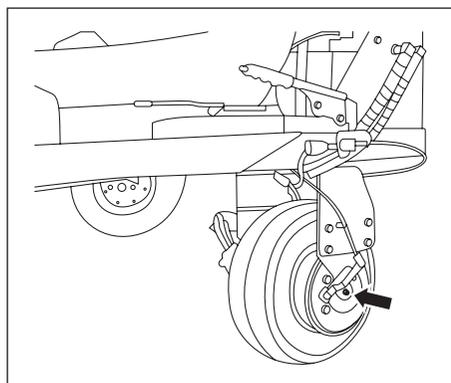


### 4. ハンドルプーリー

ハンドルプーリーとワイヤーの接触部にそれぞれグリス (モリスピードグリス No.2) を塗付してください。

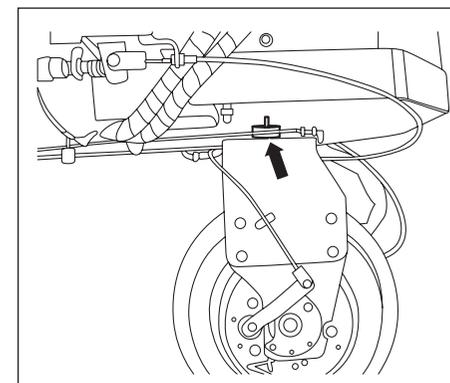


### 2. ブレーキレバー付カム軸

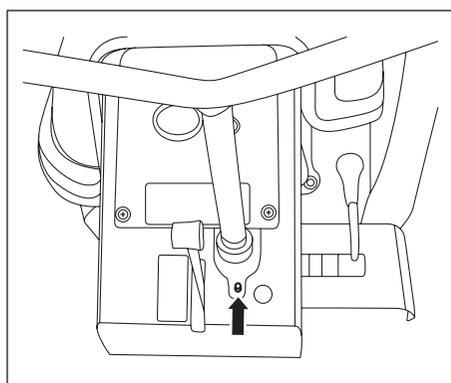


### 5. ステアリングプーリー

ステアリングプーリーとワイヤーの接触部にそれぞれグリス (モリスピードグリス No.2) を塗付してください。

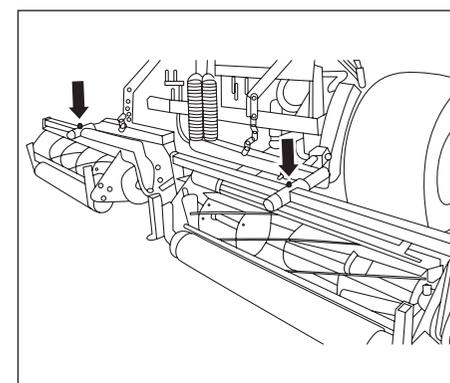


### 3. ハンドル

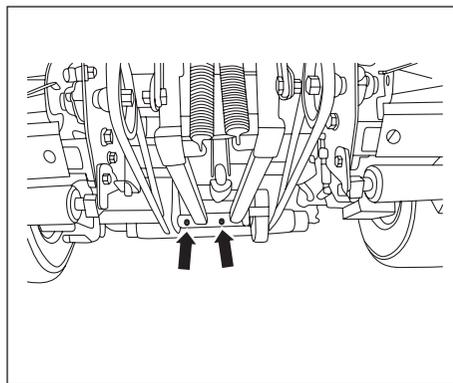


### 6. 前モアーム

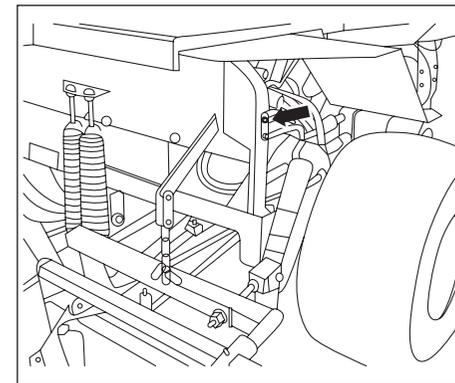
左右の前モアームに1か所ずつあります。



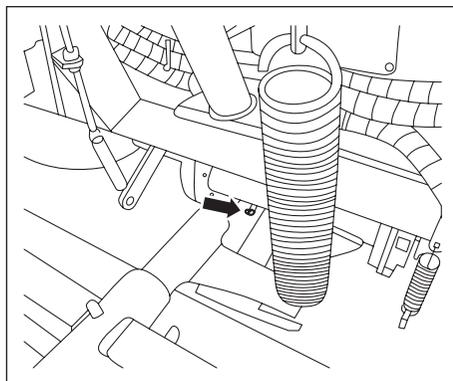
- 7. モアリフトアーム左
- 8. モアリフトアーム右



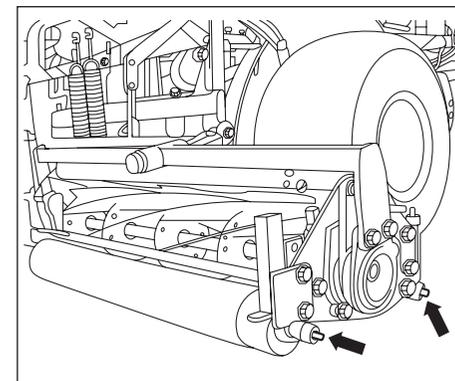
- 11. 吊上げ支点軸  
支点軸の左右に1か所ずつあります。



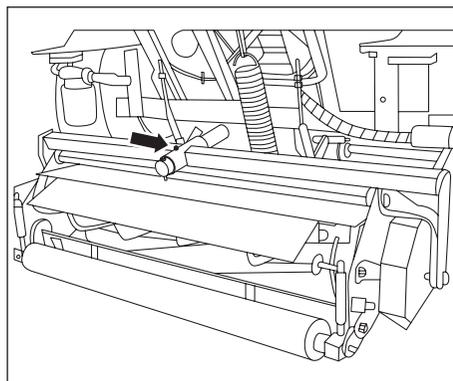
- 9. モアリフトアーム後



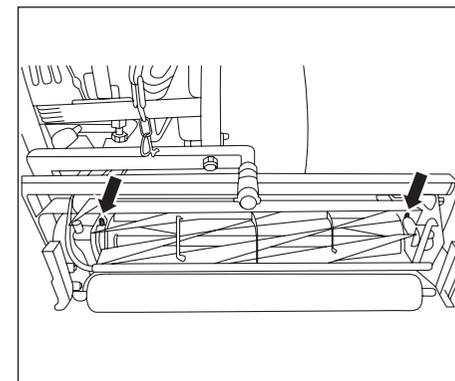
- 12. 前ローラー  
各モアユニットの前ローラーの左右に1か所ずつあります。
- 13. 後ローラー  
各モアユニットの後ローラーの左右に1か所ずつあります。



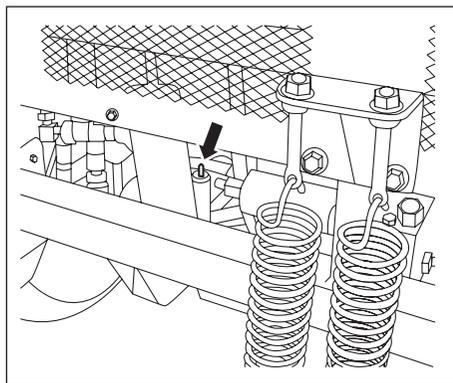
- 10. 後モアアーム



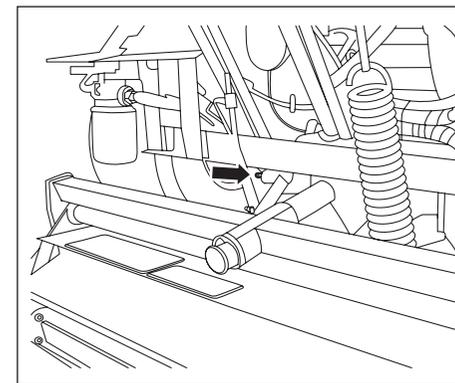
- 14. リールハウジング  
各モアユニットの左右のリールハウジングに1か所ずつあります。



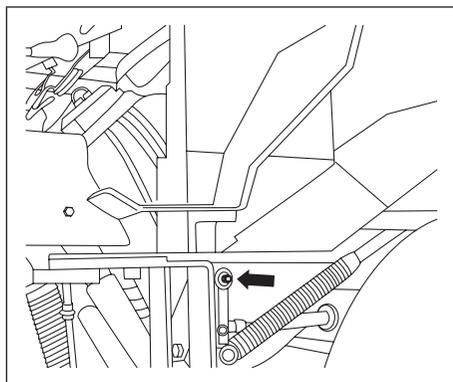
15. 走行ペダルアイドルレバー



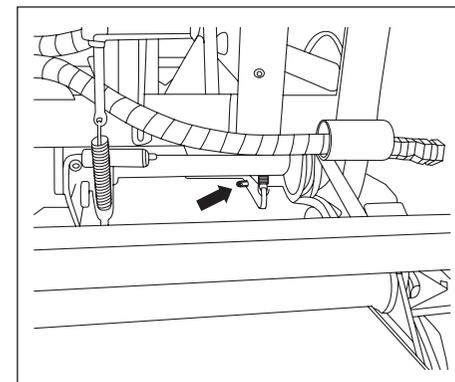
18. テンションレバー左モア



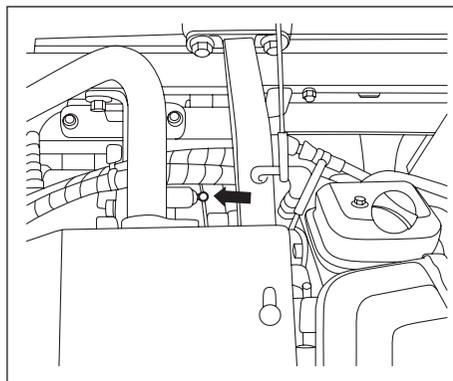
16. 走行ペダル



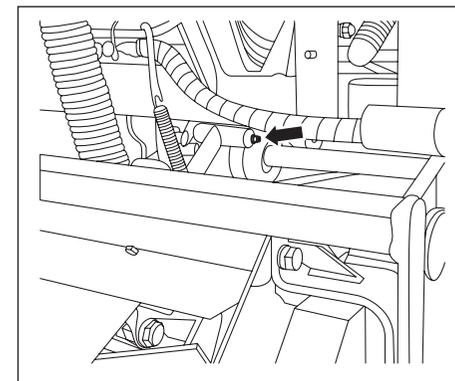
19. テンションレバー後モア



17. ポンプテンションレバー

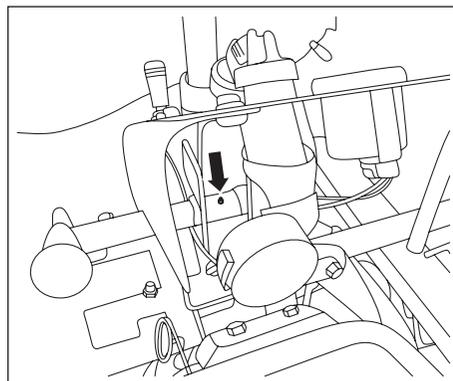


20. テンションレバー右モア



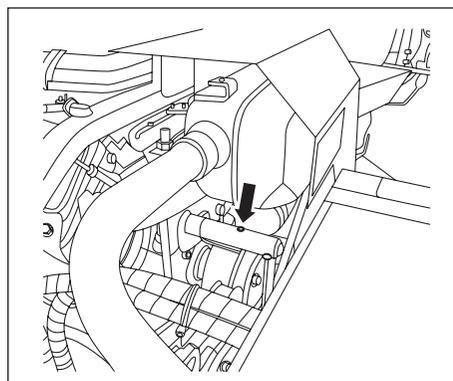
## 21. モアテンションレバー

油穴にギヤオイルを注油してください。



## 22. テンション切りレバー

油穴にギヤオイルを注油してください。



## 15. バックラッピングの方法

## ▲ 警告

バックラッピング作業中はリールカッターが回転しています。  
可動部に手足を近づけないでください。

## ▲ 注意



リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。



取り扱いには十分注意してください。



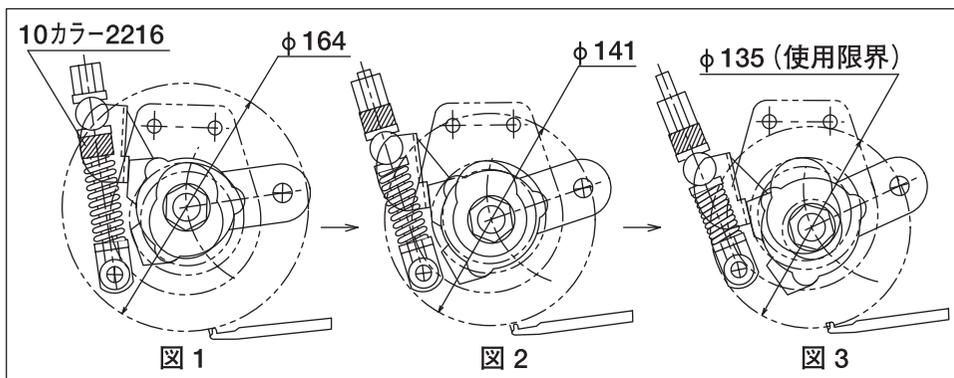
新聞紙を試し切りするときは、リールカッターを回す指先に十分注意してください。

リールカッターとベッドナイフを軽く接触させ、ラッピングマシンなどでリールカッターを逆回転させながら、ブラシなどでラッピングパウダー 1 に対しオイルを 3 - 4 の割合で混合したものを、新聞紙が切れる箇所に塗ります。(切れ味の悪い箇所は絶対にパウダーは塗らないでください。) そのまま使用できるジェルコンパウンド (オプション) は混合不要です。これを繰り返し行えば、リールカッターとベッドナイフは全面むらなくかみ合うようになります。最後に全面に塗ってバックラッピング仕上げをしてください。

バックラッピング後はスチームなどで研磨剤をきれいに洗い落としてください。

## 16. 「10 カラー 2216」の組み付け位置について

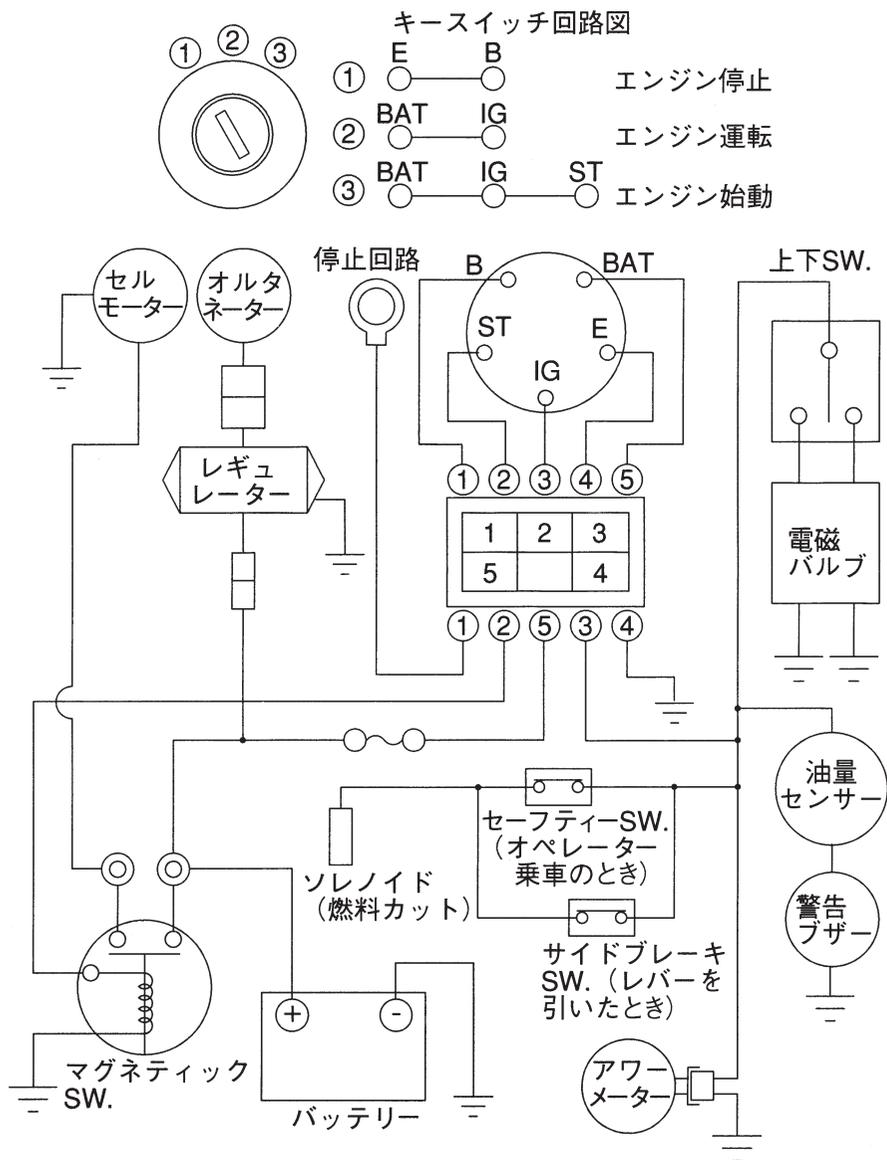
1. リール刃が新品の場合、図1のように組み立てます。
  2. リール刃が減ってバネが密着したら、図2のように「10 カラー 2216」を移動し組み直してください。
  3. リールの使用限界はφ135です。(図3)
- ※ 図中のリール刃の外径は参考値です。下刃の残量によっても異なります。
- ※ プーリーの外径はφ134です。小さくなったリール刃で低刈りをするときは注意してください。



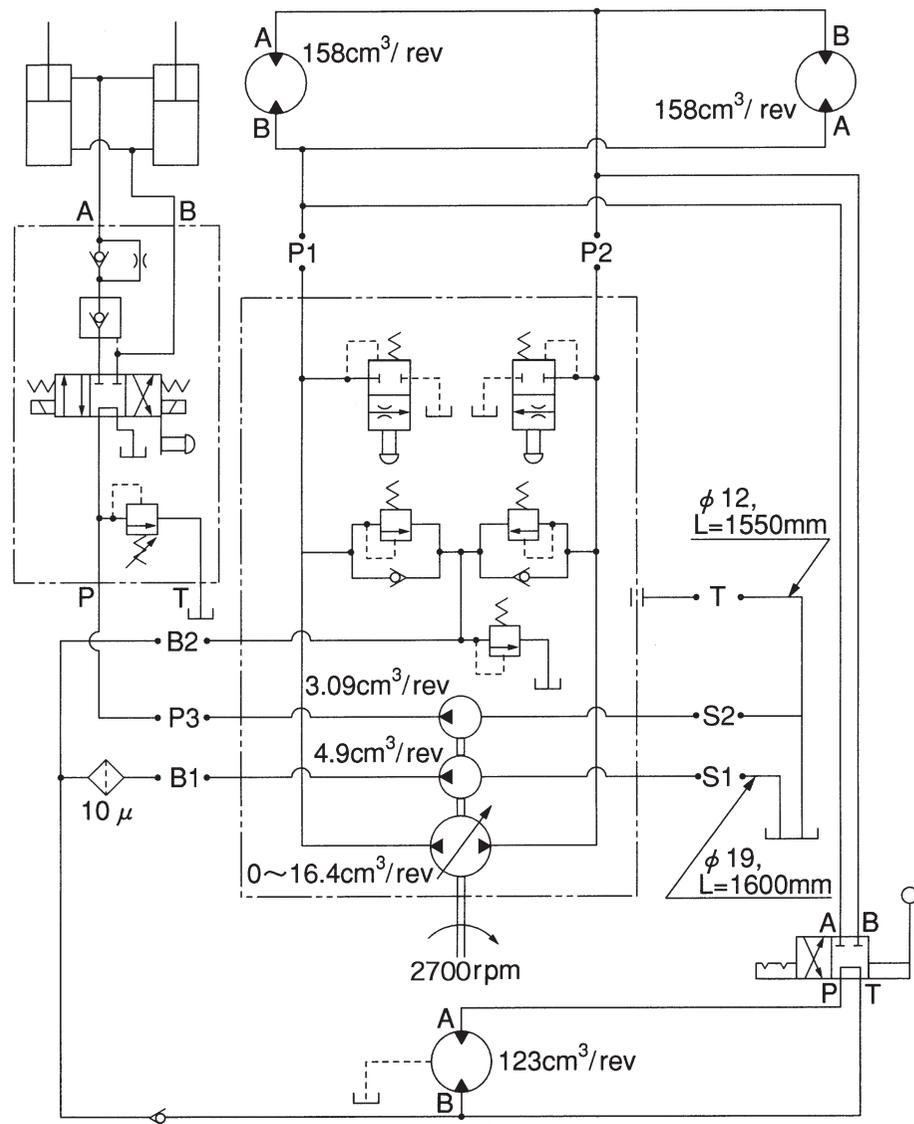
## 17. 長期保管について

1. 燃料を抜く。  
 燃料タンク内のガソリンを抜き取り、燃料タンクを空にし、火元から十分離してください。
2. 注油（グリースアップ）する。  
 各注油箇所（各注油箇所）にグリース注入、塗布と注油をしてください。
3. 清掃して格納する。  
泥や草屑、油污れなどをきれいに落として、クリーナー・エレメント・オイルの点検交換をして、次の使用に備えてください。
4. バッテリーを外す。  
 バッテリーを機体から取り外し、充電してから風通しの良い屋内に保管してください。この機械に取り付けたまま保管する場合は、アース側（マイナス側）を取り外してください。
5. タイヤの空気圧を確認する。  
標準よりやや高めにし、湿気から守るために板の上に乗せてください。
6. 格納する。  
雨のかからない乾燥した場所で、この機械が冷めてからカバーなどをかけてください。
7. モアユニットを下げる。  
この機械を格納する際には、モアユニットを下げてください。

18. 配線図



19. 油圧回路図 (LM185BW)



# MEMO

**BARONESS**<sup>®</sup>  
Quality on Demand



株式会社 共 栄 社

〒442-8530  
愛知県豊川市美幸町1-26

TEL (0533) 84-1221  
FAX (0533) 84-1220